

# 1 次側設備について

## チャンバー

### 1. 電源

図面に表記されている MINIMUM SERVICE AMPS に合わせたブレーカーをご用意下さい。

オプションなど追加する事で要求アンペアが変わります。設計図面が完成するまで準備はお控えください。

漏電ブレーカーを使用する場合は感度設定ができる機種を選択して下さい。サーモロンの装置は変温速度向上の為、裸ニクロム線ヒーターを採用しており結露などによる漏れ電流が発生します。

### 2. 冷却配管

図面に表記されている要求流量・水圧を接続口サイズにあわせて配管を用意して下さい。

下記、図 1 を参考に準備して下さい。

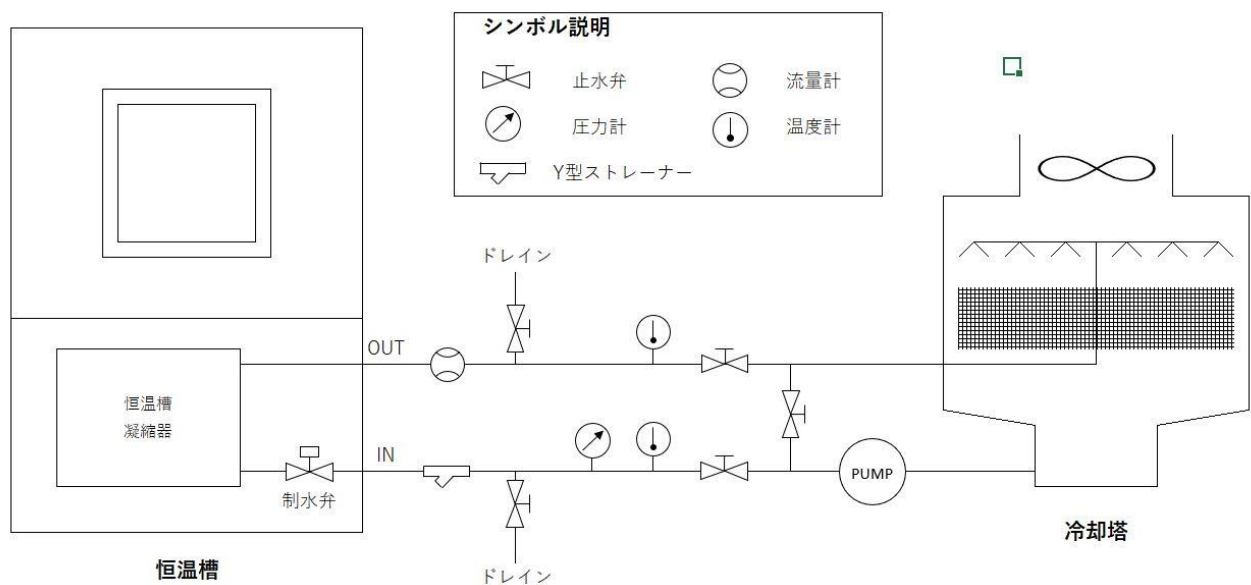


図 1

止 水 弁 : スリースバルブは水質が悪いとスケールの付着で止水できなくなるので、ボールバルブをお勧めします。

圧 力 計 : 給水側に取り付けて下さい。恒温槽異常時に要求圧力を満たしているか確認できます。

Y型ストレーナー : 恒温槽に大きなゴミが入らないようします。目が細かいストレーナーを使用すると短時間で詰まるので荒い目を選択して下さい。

流 量 計 : 恒温槽トラブル時に冷却水が流れているか確認できます。Y型ストレーナーの詰まり判断にも役立ちます。オリフィス式は目詰まりが多発する為、フラッパー式サイトグラスをお勧めします。

温 度 計 : 恒温槽出入口に取り付ける事で熱交換しているか確認できます。温度差が大きい場合はメンテナンスが必要です。

ド レ イ ン : 清掃用にニップルとホースが刺さるようにして頂けると循環式清掃が可能になります。



ボールバルブ



フラッパー式サイトグラス



温度・圧力計

# 1 次側設備について

## 3. 圧縮空気

ドライエアーパージ等で圧縮空気を要求された場合にご準備下さい。

図面に表記されている要求流量・空気圧を接続口サイズにあわせて配管を接続して下さい。

接続はニップルやクイックカップラとウレタンホースによる接続で問題ありません。

HALT 試験機 ECA 等を除くほとんどの場合、工場設置の圧縮機で対応可能です。

## 4. ドレイン（排水）

湿度機能がない装置でも冷凍機などの結露水が排水されます。

ほとんどの接続口は 1/4 インチ FPT です。

冷凍機ドレインパン位置が低い為、配管が長い場合や勾配ができると装置内で水漏れが発生します。

目詰まり防止の為、接続口より太い管で繋げて下さい。

## 5. その他

設置環境は温度管理された空間を推奨します。空調が無い環境で運用すると結露による錆などで装置の劣化が進みます。

装置のメンテナンスで前後左右のパネルを開く必要があります。前後左右に各 1m スペースを用意して下さい。冷却水配管を装置の近くで横引きすると大きな部品の交換修理ができなくなることがあります。

液体窒素ブーストを使用する場合は狭い環境で利用すると窒息の危険があります。十分な広さと換気システムの準備をして下さい。

空冷式の恒温槽は装置前後に空気循環する為、特に吸い込み口になる前面に障害物を置かないで下さい。

## 振動機

### 1. 電源

機械式振動機はチャンバーから供給されます。

動電式振動機は専用電源の用意が必要です。図面に記載されている MINIMUM SERVICE AMPS に合わせてブレーカーをご用意下さい。

### 2. エア配管

防振用エアマウントに使用します。ほとんどの場合は静圧を利用していますが、圧力が不足した場合に自動補充されます。

その為、流量より圧力が重要になります。

図面に表記されている要求流量・空気圧を接続口サイズにあわせて配管を接続して下さい。ほとんどの場合 1/4 インチ FPT です。

接続はニップルやクイックカップラとウレタンホースによる接続で問題ありません。

### 3. 排気ダクト

動電式振動機は電磁コイルによる発熱がありブLOWERを使用して排熱します。ダクトを接続して屋外まで排熱して下さい。

排熱ダクトサイズは図面を参照下さい。

### 4. 設置環境

振動による共振で建屋が揺れる事があります。十分な強度がある建屋で基礎のある 1 階（地下のない）に設置して下さい。